

2016年度 センター試験 倫理、政治・経済（本試験） 分析

全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：6題	解答数：37問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化 ● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化	
問題の分量（対昨年）	○ 増加 ○ 変化なし ● 少	
出題分野の変化	○ あり ● なし	
出題形式の変化	○ あり ● なし	
新傾向の問題	○ あり ● なし	

総評

新課程移行初年度、「倫理、政治・経済」出題再開5年目であるが、出題内容および形式に大きな変化は見られなかった。「倫理」から50点分(解答数19)、「政経」から50点分(解答数18)と均等に出題され、「政経」も「政治」および「経済」の各分野から均等に出題されている。例年、「倫政」オリジナル問題が数問出題されてきたが、今年はすべてが「倫理」および「政経」から抜粋された設問で構成されていた。また、「政経」分野で出題が2問減少したため、総解答数も2問減少している。いずれの分野においても、資料の読み取り問題が出題されており、「倫理」では趣旨合致問題も出題されている。言葉の意味を覚えるだけでなく、それを活用して分析していく力が求められていることに留意しておきたい。なお、「政経」分野では、昨年出題された直近の時事問題が、今年は出題されなかった。「政経」分野が若干易しくなった一方で、「倫理」分野はやや難しい印象がある。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	プロ野球選手の契約更改をテーマにした会話文を素材に、現代社会や青年期の課題を問う。	14点	科学者の倫理・欲求不満・『税と正義』からの読み取り・統計資料読み取り・コミュニタリアニズムに関する空欄補充問題の順に問う。『税と正義』はマーフィーとネーゲルの共著であるが、読み取り問題なので事前の知識は不要である。
第2問	喜びをテーマにしたリード文で、日本思想と東洋思想を総合的に問う。	18点	和辻哲郎・仏教・親鸞・室鳩巢の著作読み取り・孔子・武者小路実篤・本文の趣旨問題の順に問う。室鳩巢の『駿台雑和』については、内容の読み取り問題であるため事前の知識は必要ない。
第3問	時間をテーマにしたリード文で、西洋思想を中心に総合的に問う。	18点	イエス・ルネサンス・カント・バークリーやロックなどの経験論の思想家・ハイデガー・アリストテレスやムハンマドなどの源流思想家・本文の趣旨問題の順に問う。正しいものの組み合わせ問題は、全パターンでの7択となっている。
第4問	近代主権国家の変容をテーマにしたリード文で、政治・経済・国際分野を総合的に問う。	22点	『国家論』著者・地域経済統合の実例・金融政策・日本とギリシャの統計読み取り・基本的人権の類型・日本国憲法における意思決定の在り方・地方自治の基本・行政改革の歴史の順に問う。
第5問	冷戦後の民族紛争をテーマにしたリード文で、国際政治分野を中心に総合的に問う。	14点	空欄補充・コンゴ紛争やチェチェン紛争などの地域紛争・難民条約の内容・日本の労働問題・新しい人権の順に問う。新しい人権では、メディア・スクラムという見慣れない言葉が出ているが、知らなくても解答は導ける。
第6問	市場メカニズムをテーマにしたリード文で、経済分野を中心に総合的に問う。	14点	需要供給曲線の移動・社会保障の歴史・NPO・地方財政の資料問題の順に問う。受給曲線のグラフ問題は平易である一方で、資料問題は知識を前提とした分析が求められている。